

日商簿記 3 級 習熟度確認テスト

【問題用紙・答案用紙】

2020年6月 日商簿記検定試験に向けて 3 級の学習を進めていらっしゃる皆様に、現在の 3 級の習熟レベルが分かる確認テストをご用意いたしました。

本試験と同じく、全 5 問構成で制限時間120分となっておりますので、本 P D F データを出力いただき、ぜひご自身で時間を計った上で、問題に挑戦してみてください。

解き終わりましたら、別途掲載している模範解答 P D F より、採点いただき、3 級の学習方法や 2 級学習へのスタートなど今後の学習にお役立てください。

T A C 簿記検定講座

3 級習熟度確認テスト 問題用紙

目標解答時間 120分

第1問 次の取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現	金	当	座	預	金	売	掛	金	備	品
前	払	金	受	取	商	未	収	入	仮	払
買	掛	金	未	払	配	前	受	金	未	払
仮	受	金	減	価	償	利	益	準	繰	越
売	上	仕	入	却	累	益	準	備	利	益
				計	額	金	金	金	剰	余
						固	定	資	産	売
						却	損			

1. 東京(株)から商品¥250,000を仕入れ、この代金のうち¥50,000は先に支払った手付金と相殺し、¥100,000は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。なお、当座預金の預金残高は¥60,000であったが、取引銀行と借越限度額¥400,000の当座借越契約を結んでいる。
2. 大阪(株)に商品¥300,000を売り上げ、代金のうち¥100,000は共通商品券で受け取り、残額は先方振り出しの小切手で受け取った。
3. 第×2期株主総会において、繰越利益剰余金¥480,000を次のとおり処分することが承認された。なお、残高は繰越利益剰余金のまま繰り越すこととする。
株主配当金：¥390,000 利益準備金の積立て：¥39,000
4. かねて出張中の社員から当座預金口座に振り込まれていた内容不明の¥250,000は、名古屋(株)からの売掛金の回収分であることが判明した。
5. 取得原価¥500,000、減価償却累計額¥395,000の事務用パソコンを当期首に売却し、代金¥80,000は月末に受け取ることにした。

第2問 下記の7月の各取引が、答案用紙に示されたどの補助簿に記入されるかを答えなさい。なお、解答にあたっては、該当するすべての補助簿の欄に○印を付し、該当する補助簿が1つもない取引は「該当なし」の欄に○印を付すこと。

- 2日 商品¥120,000を仕入れ、代金は掛けとした。なお、当店負担の引取運賃¥8,000は現金で支払った。
- 5日 交通費等の支払いに使用する目的で、ICカードに現金¥10,000をチャージした。チャージした分は仮払金で処理し、ICカードを使用したときに支払いの内容にあわせて適切な勘定科目を振り替える。
- 8日 社会保険料¥72,000が当座預金口座より引き落とされた。なお、¥36,000が従業員負担分(社会保険料預り金)、残りが会社負担分である。
- 12日 先月に建物を¥6,600,000で購入する契約をしていたが、本日その引き渡しを受けた。この引き渡しにともない、購入代金のうち¥1,600,000は小切手を振り出し、残額については次月以降10回にわたって分割して支払うこととした。また、取引手数料と登記費用、あわせて¥66,000を現金で支払った。
- 23日 得意先に対する売掛金¥30,000が回収不能となり、貸倒れとして処理した。この売掛金は前期に販売した分である。当社では、前期末の決算において貸倒引当金¥38,000を設定しており、7月23日の貸倒れ時点で全額が残っている。
- 28日 5日にチャージしていたICカードにつき、電車代(旅費交通費)として¥960、文房具の購入代(消耗品費)として¥720を使用した。

第3問 次の合計試算表（A）と諸取引（B）にもとづいて、8月末の合計残高試算表と、売掛金および買掛金の明細表を作成しなさい。なお、売上と仕入はすべて掛けで行っている。なお、当座取引においてはA銀行、B銀行いずれも、借越限度額¥300,000の当座借越契約を結んでいる。

（A）×4年8月25日現在の合計試算表

	借 方	貸 方
現 金	¥ 850,000	¥ 580,000
当座預金A銀行	700,000	400,000
当座預金B銀行	500,000	300,000
電子記録債権	1,100,000	600,000
売 掛 金	1,000,000	700,000
繰 越 商 品	400,000	
備 品	160,000	
電子記録債務	300,000	800,000
買 掛 金	600,000	800,000
借 入 金		500,000
資 本 金		800,000
繰越利益剰余金		200,000
売 上		1,220,000
仕 入	840,000	
給 料	120,000	
支 払 家 賃	300,000	
支 払 利 息	30,000	
	<u>¥6,900,000</u>	<u>¥6,900,000</u>

（B）×4年8月26日から31日までの取引

26日 売上：神戸㈱¥60,000 京都㈱¥50,000
仕入：秋田㈱¥80,000 山形㈱¥60,000
買掛金の支払：青森㈱に対して当座預金A銀行の小切手¥50,000を振り出した。
借入金の返済：¥100,000が利息¥3,000とともに当座預金B銀行の口座より引き落とされた。

27日 売上：大阪㈱¥80,000 京都㈱¥30,000
商品の返品：26日神戸㈱に販売した商品の一部¥10,000が品違いのため返品された。
給料の支払い：¥120,000を現金で支払う。

28日 仕入：青森㈱¥40,000 秋田㈱¥70,000
電子記録債権の発生記録：次の売掛金について各社の承諾を得たうえで、取引銀行（取扱機関）を通じて電子記録債権の発生記録を行った。
大阪㈱¥100,000 神戸㈱¥50,000
京都㈱¥ 80,000
電子記録債権の決済：かつて発生記録を行っていた¥200,000の支払期限が到来し、当座預金A銀行の口座に振り込まれた。

29日 電子記録債務の発生記録：次の買掛金について各社より依頼を受けたうえで、取引銀行（取扱機関）を通じて電子記録債務の発生記録を行った。

秋田㈱¥100,000 山形㈱¥50,000

電子記録債務の決済：かつて発生記録を行っていた¥100,000の支払期限が到来し、当座預金A銀行の口座より引き落とされた。

30日 休業

31日 売上：大阪㈱¥50,000 神戸㈱¥40,000

仕入：青森㈱¥30,000

家賃の支払い：¥300,000が当座預金B銀行の口座より引き落とされた。

第4問 福島㈱（当期は×1年4月1日から×2年3月31日まで）における借入金の利息の支払いが生じた取引および決算整理事項にもとづいて、下記の支払利息勘定、前払利息勘定と未払利息勘定に必要な記入をして締め切りなさい。なお、勘定記入にあたっては、日付、摘要および金額を取引順に記入するものとし、次頁の①～⑧にあてはまるものを答案用紙に記入しなさい。ただし、摘要欄に記入する語句は〔語群〕から最も適当と思われるものを選び、正確に記入すること。

- 6月1日 取引銀行甲に¥500,000の借入れの申し入れを行った。
- 7月1日 取引銀行甲より¥500,000を借り入れ、1年分の利息を差し引かれた金額が当座預金に振り込まれた。なお、借入期間は1年、利率年5%の条件である。
- 12月1日 取引先山形㈱に約束手形を振り出して、資金¥300,000を借入れ、先方振出しの小切手を受け取った。なお、借入期間は10ヵ月、利率年6%、×2年9月30日に元金の返済とともに利息を支払う条件である。
- 3月31日 決算につき必要な処理を行う。（甲銀行よりの借入れに対する利息の当期未経過分を前払い処理するとともに、山形㈱よりの借入れに対する利息の当期経過分の未払い処理を行う。）

〔語群〕

当 座 預 金	支 払 手 形	借 入 金	手 形 借 入 金
未 払 金	支 払 利 息	前 払 利 息	未 払 利 息
損 益 諸	口	次 期 繰 越	前 期 繰 越

支 払 利 息					
(/)	①	(②)	(/)		()
(/)		()	(/)	③	(④)
		()			()
前 払 利 息					
(/)		()	(/)	⑤	()
		()			()
(/)		(⑥)			
未 払 利 息					
(/)		()	(/)	⑦	(⑧)
		()			()
			(/)		()

第5問 次の期末修正事項によって、答案用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は×7年4月1日から×8年3月31日までの1年である。

1. 決算日に、売掛金の回収として¥40,000が普通預金口座に入金されていたが、未処理であった。
2. 当期首にそれまで使用してきた車両を全て売却したが、現金で受け取った金額¥190,000を仮受金に計上しているのみであり、適切な処理を行う。
3. 売掛金期末残高に対し、実績率法により2%の貸倒れを見積る。なお、貸倒引当金の計上は差額補充法によること。
4. 当座預金勘定の貸方残高¥100,000を当座借越勘定に振り替える。なお、当社は借越限度額¥300,000の当座借越契約を結んでいる。
5. 期末商品棚卸高は¥180,000である。なお、売上原価は「仕入」の行で計算する。
6. 備品に対し減価償却を行う。なお、備品のうち¥60,000は×7年11月15日に取得したものであり、当該備品の減価償却は月割計算による。備品の減価償却の方法は、(期中取得の備品も含めて)以下のとおりである。
償却方法：定額法 耐用年数：5年 残存価額：ゼロ
7. 郵便切手の未使用高¥2,000が通信費勘定に、収入印紙の未使用高¥20,000が租税公課勘定に含まれており、これをあわせて適切な科目に振り替える。
8. 試算表に計上されている支払家賃¥132,000は11ヶ月分で、1ヶ月分が未払いとなっている。
9. 試算表に計上されている保険料¥12,000は当期首に向こう2年分を支払ったものである。
10. 試算表に計上されている借入金¥400,000は×8年1月1日に利率年9%で借り入れたものである。なお、利息は返済期日(×8年10月31日)に元金とともに支払う。利息は月割計算による。

3 級習熟度確認テスト 答案用紙

総 合 点

第
1
問

第
2
問

第 1 問 (20点)

番号	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1.				
2.				
3.				
4.				
5.				

第 2 問 (12点)

	2 日	5 日	8 日	12日	23日	28日
現 金 出 納 帳						
当 座 預 金 出 納 帳						
仕 入 帳						
商 品 有 高 帳						
仕 入 先 元 帳						
得 意 先 元 帳						
固 定 資 産 台 帳						
該 当 な し						

第3問		第4問	
-----	--	-----	--

第3問 (30点)

合 計 残 高 試 算 表

×4年8月31日

借 方 残 高	借 方 合 計	勘 定 科 目	貸 方 合 計	貸 方 残 高
		現 金		
		当 座 預 金 A 銀 行		
		当 座 預 金 B 銀 行		
		電 子 記 録 債 権		
		売 掛 金		
		繰 越 商 品		
		備 品		
		電 子 記 録 債 務		
		買 掛 金		
		借 入 金		
		資 本 金		
		繰 越 利 益 剰 余 金		
		売 上		
		仕 入		
		給 料		
		支 払 家 賃		
		支 払 利 息		

売 掛 金 明 細 表

	8 月 25 日	8 月 31 日
大阪(株)	¥ 150, 000	¥
神戸(株)	80, 000	
京都(株)	70, 000	
	¥ 300, 000	¥

買 掛 金 明 細 表

	8 月 25 日	8 月 31 日
青森(株)	¥ 100, 000	¥
秋田(株)	60, 000	
山形(株)	40, 000	
	¥ 200, 000	¥

第4問 (8点)

①		⑤	
②		⑥	
③		⑦	
④		⑧	

第5問 (30点)

第5問

精 算 表

勘 定 科 目	残 高 試 算 表		修 正 記 入		損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方	借 方	貸 方
現 金	203,000							
普 通 預 金	470,000							
当 座 預 金		100,000						
売 掛 金	540,000							
繰 越 商 品	150,000							
車 両	370,000							
備 品	260,000							
買 掛 金		201,000						
借 入 金		400,000						
仮 受 金		190,000						
貸 倒 引 当 金		4,000						
車両減価償却累計額		222,000						
備品減価償却累計額		40,000						
資 本 金		630,000						
繰越利益剰余金		113,000						
売 上		1,400,000						
仕 入	800,000							
給 料	228,000							
通 信 費	20,000							
支 払 家 賃	132,000							
租 税 公 課	90,000							
保 険 料	12,000							
支 払 利 息	25,000							
	3,300,000	3,300,000						
固定資産売却 ()								
貸倒引当金繰入								
当 座 借 越								
減 価 償 却 費								
()								
() 家 賃								
() 保険料								
() 利 息								
当期純 ()								